

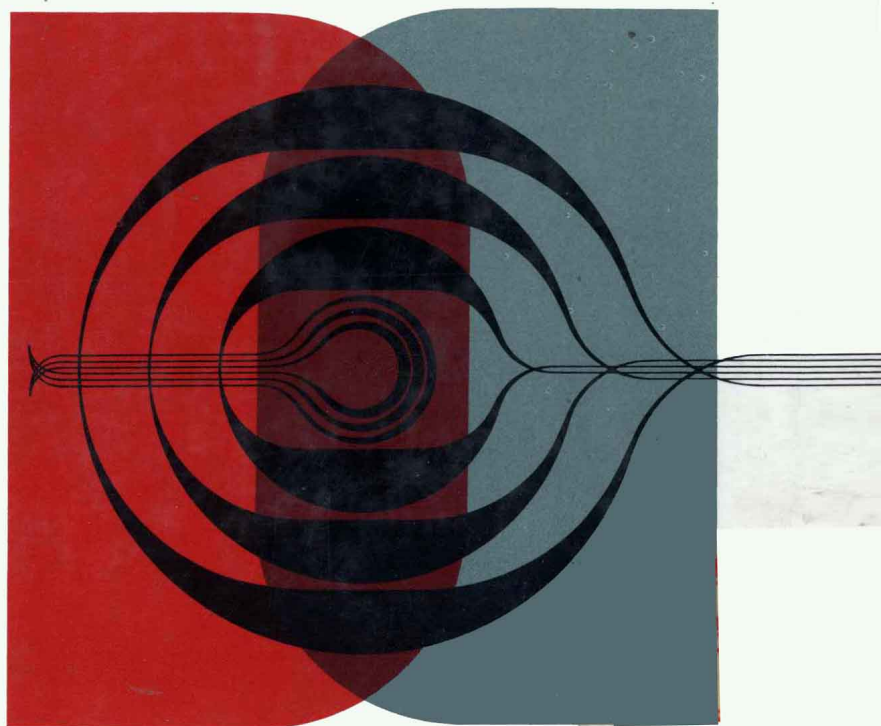
経済学基礎セミナー 5

現代大企業論

—日本の大企業体制—

野口雄一郎 編
安部一成

有斐閣



現代大企業論

野口雄一郎・安部一成編

——日本の大企業体制——



有斐閣

〈編者紹介〉

の ぐも けう いち あり
野口雄一郎

1922年 北九州市に生まれる。
1952年 東京大学経済学部を卒業し、
現在は中央大学経済学部教授。
『巨大都市』（勁草書房）などの著書がある。

あ べ けい ち
安部 一成

1927年 下関市に生まれる。
1951年 神戸経済大学（現在の神戸大学経済学部）を卒業し、
現在は山口大学経済学部教授。
『日本の景気変動』（日本経済新聞社）などの著書がある。

現代大企業論

経済学基礎セミナー 5

昭和47年10月25日 初版第1刷印刷
昭和47年10月30日 初版第1刷発行

¥ 700.

編 者 野 口 雄 一 郎
安 部 一 成



発 行 者 え 江 草 忠 允
あ っ ち

発 行 所 株 式 会 社 有 斐 閣

東京都千代田区神田神保町2の17
電 話 東 京 (264) 1 3 1 1 (大代表)
郵便番号[101] 振替口座 東京 370 番
本郷支店[113] 文京区東京大学正門前
京都支店[606] 左京区田中門前町44

印刷・中村印刷株式会社 製本・新日本製本株式会社
© 1972, 野口雄一郎・安部一成, Printed in Japan
落丁・乱丁本はお取替いたします。

1333-052750-8611

執筆者紹介

(執筆順、〈 〉内執筆章)

- 野口雄一郎 (のぐちゆういちろう) 中央大学経済学部教授 〈編集〉
安部一成 (あべかずなり) 山口大学経済学部教授 〈編集, 序, 5〉
二木雄策 (ふたつぎゆうさく) 神戸商科大学商経学部教授 〈1〉
村岡俊三 (むらおかしゅんぞう) 東北大学経済学部助教授 〈2〉
小林好宏 (こばやしよしひろ) 北海道大学経済学部助教授 〈3〉
三戸公 (みとただし) 立教大学経済学部教授 〈4〉
山本英太郎 (やまもとえいたろう) 山口大学経済学部教授 〈6〉
志村嘉一 (しむらかいち) 専修大学経営学部教授 〈7〉
山田隆士 (やまだたかし) 中央大学商学部教授 〈8〉
加藤誠一 (かとうせいいち) 立教大学経済学部教授 〈9〉
小島健司 (こじまけんじ) 日本福祉大学社会福祉学部教授 〈10〉
島弘 (しまひろむ) 同志社大学商学部教授 〈11〉
岡本秀昭 (おかもとひであき) 法政大学経営学部教授 〈12〉
新田俊三 (にったしゅんぞう) 東洋大学経済学部助教授 〈13〉
鎌倉孝夫 (かまくらたかお) 埼玉大学経済学部助教授 〈14〉
高橋清 (たかはしきよし) 静岡大学法経短期大学部教授 〈15〉
飯尾要 (いいおかなめ) 桃山学院大学経済学部教授 〈16〉
竹下昌三 (たけしたしょうぞう) 岡山大学法文学部教授 〈17〉
伊従寛 (いよりひろし) 公正取引委員会事務局経済部国際課長 〈18〉
厚谷襄児 (あつやじょうじ) 公正取引委員会事務局官房審判官室長 〈18〉

イラスト 久谷政樹
写 真 共同通信社提供

はしき

現代資本主義社会の中核は、ビッグ・ビジネスとよばれる大企業である。それは現代の産業の基幹でもあるが、同時に、たんに一つの産業上の機構というだけではない。大企業は、その巨大さのゆえに、国家と政府に大きな影響と波及効果を及ぼすことによって、現代社会のなかで、政治、行政、外交にいたるあらゆる部面で、主導的な役割を演じている。すなわち、大企業は国家と政府を内部から支配することによって、いわゆる「大企業体制」をつくりあげている。

とくに日本の大企業は、敗戦後の経済民主化政策の打撃から立ちなおり、一九五五年以降の高度成長のなかで、成長に成長を重ねてきた。それはフェニックスのごとくよみがえっただけでなく、世界企業と肩をならべ、さらに大国日本の中核として、いまやふたたびアジアに君臨する存在となっている。

しかも国内的にみるならば、大企業は高度成長の担い手として国民の生活水準を高めはしたが、同時に物価上昇、産業公害、労働災害、人間疎外という計量することの不可能なマイナスを国民に与えた。その結果、国民はGNP主義にたいする疑問をいだくとともに、これらの解

決困難な問題をいっきよに露呈した現体制の根本を問うようになった。

もしわれわれがこの間に正しく答えようとするれば、日本の「大企業体制」の行動論理をつきつめてみる必要がある。その場合、大企業体制のメカニズムの複雑さを反映して、われわれの解明も多面的でなくてはならないが、これを次のように整理した。

✧ 大企業はいかなる地位を占め、何を目標とし、どのような機構を作っているか。そして日本の大企業体制の特徴は何か（第Ⅰ編）。

✧ 各国の大企業が世界市場の少数支配をめざすまでにいたった現在、日本の大企業はその国内・国外での支配力を維持・拡大するためにどう行動しているのか（第Ⅱ編）。

✧ 労働者は、大企業体制によってどのように支配・管理され、それにどう抵抗あるいは適応しようとしているのか（第Ⅲ編）。

✧ 政府は大企業べったりと言われるが、現代の政府は、大企業体制において、どのような役割を果たしているのか（第Ⅳ編）。

✧ 大企業の強大な権力を抑えうる制度はありうるのか。また大企業体制のもとで、私たちは国民には何ができ、何をなすべきなのか（第Ⅴ編）。

私たちは、真の豊かさなるものの本質を把握しようとしつつ、大企業体制を問いつめていこうとするのであるが、そのことはとりもなおさず、私たちがいかなる体制を選択すべきなのか

という問題を考えるうえでの一つの重要な視角を呈示することになるにちがいない。

本書では、この複雑な大企業体制をできるだけ多面的に見るため、多くの研究者の執筆と協力を得た。もちろんそれぞれの執筆者の分析の方法や結論には差異があるかもしれない。しかし、全ての章にわたって、今まで述べてきた問題意識がつらぬかれていることを、読者は読みとられるであろう。本書が、読者が更に深く現代社会の病巣の根源に迫る起点になることこそ、編集にあたったわれわれの希望するところである。

一九七二年九月

野口雄一郎
安部一成



目次

はしき

序 巨大化の実像と虚像 ◆現代日本の大企業体制……………1

1 経済の中枢をにぎる大企業群……………1

2 集中と支配……………3

3 大企業の行動論理……………7

4 日本の大企業がめざしてきたこと……………11

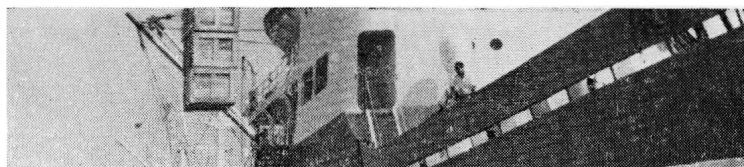
5 大企業存立条件の虚構性……………14

第I編 大企業体制とは何か……………17

★大企業とは何か。大企業体制とは何か。ここでは、現代社会に君臨する大企業の組織・構造と、そのよって立つ原理が分析される。



1 日本経済を支配するもの ◆ 日本大企業体制の構造 19	1 大企業の地位 19	2 大企業の借入金依存 22	3 大企業相互間の株式持合い 24	4 大企業と外国・政府・官僚との結びつき 31	2 世界を支配するもの ◆ 現代大企業体制の国際的構造 36	1 戦後の世界経済の動き 36	2 主要国における独占体の復活と展開 42	3 アメリカの独占体の展開 47	3 安定か成長か ◆ 日本大企業の行動原理 54	1 企業の行動目標は何か 54	2 大企業の成長志向性 60	3 大企業の成長戦略 63
--	--------------------------	-----------------------------	--------------------------------	--------------------------------------	---	------------------------------	------------------------------------	-------------------------------	---------------------------------------	------------------------------	-----------------------------	----------------------------



4 経営システムの変貌 ◆ 日本大企業の組織……………68

1 日本大企業を支配しているのは誰か——所有と支配……………68

2 巨大なピラミッド——大企業の組織……………74

3 恐るべき将来……………77

第Ⅱ編 現代大企業の支配戦略……………83

★大企業が現代社会を支配する「手段」は何か。ここでは、その支配力を維持し、拡大するために、大企業が何をなすかが分析される。

5 新しいインフレーション ◆ 市場支配と管理価格……………85

1 「新しいインフレーション」——大企業は免罪されるか……………85

2 自由競争と少数大企業間の競争はどう違うか……………89

3 大企業は何を目標として価格を決めるか……………91

4 大企業の支配・管理の体制をどう評価するか……………94

6 大企業の保守性と革新性 ◆ 投資行動と技術革新……………100

1 日本の高成長と大企業……………100



9	淘汰と選別	◆ 中小企業の支配	145
8	「国際化」と大企業	◆ 輸出競争と海外進出	131
1	急増した日本の輸出と大企業		131
2	「輸出競争力増大」の内容		134
3	高度成長を支えた資源輸入の問題		137
4	対外直接投資の展開とその方向		139
7	借金経営を支えたもの	◆ 資金調達と金融集中	116
1	日本の金融市場構造——高度成長を支えたもの		116
2	大企業の資金調達——借金経営の実態		119
3	大企業と銀行の関係		124
4	大企業金融の補完機構		126
2	寡占的市場における投資行動と技術革新		103
3	大企業の保守性と革新性		106
4	日本における寡占体制は強まるか		110



第Ⅱ編

現代大企業と労働

..... 161

★現代の巨大な生産力の担い手は重裝備された労働者の大群である。
ここでは、大企業体制下の労働者の経済的・精神的状況が示される。

- 1 中小企業の果たしている役割と将来..... 145
- 2 中小企業の存立条件と大資本支配の方向..... 148
- 3 大企業体制下での政策の展開と帰趨..... 152

10

生産性と賃金 ◆ 雇用量と労働分配率

..... 163

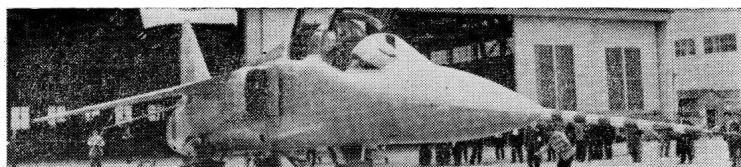
- 1 賃金も上昇したが生産性はより上昇した..... 163
- 2 所得政策とその目的..... 170

11

機械と制度のくびき ◆ 現代の労働と労務管理

..... 176

- 1 「技術革新」と労働の変化..... 176
- 2 労務管理とは何か..... 179
- 3 労務管理の「科学化」の意味..... 182
- 4 日本的労務管理のもつ矛盾..... 185



12

労働者意識の変化

◆ 労使関係と労働組合

190

1 大企業体制と賃労働

191

2 階級闘争の「制度化」

194

3 大衆社会化と「中間層意識」

198

4 現代の「疎外」

202

5 労働組合運動の基調

208

第Ⅳ編

現代大企業と国家

215

★企業国家とも呼ばれる現代国家は、大企業体制の巨大な支柱である。
ここでは、現代国家と大企業の離れがたい癒着の諸相が示される。

13

産業の再編成

◆ 大企業体制と産業政策

217

1 大企業と現代の経済政策

217

2 戦後日本の経済政策

220

3 日本の産業政策の展開

222



14

恐るべき世界破壊者

◆ 軍産複合体

230

1 「軍産複合体」——冷戦の落し子

230

2 日本の軍産複合体への過程

234

3 日本の軍産複合体の形成と展開

239

15

公益と私益

◆ 公企業と財政危機

248

1 情報・交通ネットワーク形成と公企業

248

2 国鉄大赤字の原因は何か

251

3 公企業の公共性をどう回復するか

254

4 公益と私益をどう区別するか

257

第V編

現代大企業への対抗力

263

★大企業体制を変革する主体は何か。ここでは、最近の反独占運動や制度の役割と限界が、現代大企業の政策・行動との関連で示される。

16

管理された消費

◆ 大企業と消費者主権

265

1 現代における消費者選択——そのむずかしさ

265



17

- 2 大企業の情報活動の生みだす結果……………268
- 3 消費者主権——一つの神話……………272
- 4 「消費者による制御」への道……………275

巨大工業基地と環境 ◆ 大企業と地域社会……………280

1 巨大工業基地の出現……………280

2 地域開発と住民の利害……………284

3 国土の総合利用と「新全総」……………286

4 公害と地方自治体の態度……………289

18

効率的な経済のために ◆ 独占禁止政策とその限界……………295

1 独占・寡占の弊害……………295

2 独占禁止政策の基本となる考え方……………299

3 わが国の独占禁止法……………301

4 独占禁止政策の限界……………305



研究

研究

1	「独占」概念	33
2	多国籍企業	51
3	企業成長論	65
4	管理行動	79
5	スタグフレーション	97
6	最適成長	113
7	自己金融	128
8	比較生産費説	142
9	二重構造	156
10	賃金の国際比較	174
11	労働の疎外	187
12	社会計画	212
13	ビッグ・プロジェクト	227
14	軍需財と再生産	245
15	公共財	259



18	17	16
パレート最適	社会的費用	対抗力
.....		
310	292	277

◆ 参考記事 ◆

三菱・住友・三井の勢力図……………	53	麒麟麦酒株式会社……………	81	ビジネスが犯
す23の大罪……………	82	東京電力株式会社……………	115	トヨタ自動車工業株式会社……………
…144	法人企業の設備投資実績……………	159	底辺にあえぐ三四〇万人……………	160
労働争議件数と参加人員の推移……………	214	新日本製鉄株式会社……………	229	株式会
社電通……………	261	産業守る優遇税制……………	262	“台所型”から“政治変革型”へ
…279	三菱重工業株式会社……………	294	三井鉱山株式会社……………	313
企業の世界におけるランキン……………	314	日本大		

◆ 索引 ◆